



書店から見える台湾

「台湾書店百年の物語」を中心に

台湾の近代化は概ね、日本統治時代とともにはじまったといわれています。鉄道・水道・病院・学校などのインフラ整備とともに、街には書店の開業も相次ぎました。当初、日本人による書店がほと



んどでしたが、教育の普及とともに台湾人の知識人が現れ始めますと、彼らは台湾人のアイデンティティに目覚めていき、やが



て台湾人による書店が開業されていきます。この当時の書店事情を紐解いていくと、現在の台湾における独立書店の原点が、実は日本統治時代の書店にあったことが窺えます。この度は『台湾書店百年の物語』(H.A.B刊)の内容を中心に、古書店店主ならではの視点で台湾の歴史・文化などのお話をさせていただければと思っております。

参加費

一般 2,000円 学生 500円

第164回 Think Asia Seminar (華人研)

2024年1月13日(土)
14:00-16:00

話題提供者



永井一広氏
ながい かずひろ

大阪生まれ。会社員を経て、2018年フォルモサ書院を開業。台湾関係を中心に文学・食・紀行・美術などの古書も扱う。2022年『台湾書店百年の物語』(H.A.B刊)を台湾人の妻と翻訳。台湾渡航歴多数。2023年2月、台北国際書展・台湾独立書店協会ブースにおいて日本の古本業界について登壇。『小説すばる』12月号(集英社)にエッセイを寄稿。



- 会場 大阪市立総合生涯学習センター(大阪駅前第2ビル5階) 第5研修室
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5・6階
☎06-6345-5000 (代表)
- 申込方法 メール連絡のみで受付 事務局メールアドレスまでご連絡ください
✉sec@kajinken.jp

定員
36名